



大 島

— せいしょう君だより —



大島 —せいしょう君だより— 第3号の内容

大島青松園夏祭り	2～3
瀬戸内集談会 回想記	4
大島神社の歴史について	5
日本看護研究学会 学会賞受賞	6
そうめん流し開催	7

国立療養所 大島青松園の理念

私たちは、入所者の尊厳を守り、入所者の心情を理解し、入所者が安心して生活できる環境を提供します。

基本方針

1. 入所者の権利と人格を尊重します。
2. 信頼される医療・看護・介護をめざします。
3. 職員の教育・研修に努めます。
4. ハンセン病の啓発に努めます。

夏の思ひ出 -大島夏祭り-

診療放射線科技師長 安友 基勝

平成29年8月2日（水曜日）天気は快晴、おそらく今日も暑くなるであろうことは誰しも疑う余地がない。今、大島岸壁に係留されているのは、「せいしょう」と「まつかぜ」2隻の官用船。この後、お客様や関係者の方々を運ぶべく、高松航路をフル回転で往復する予定だ。今は、じっとその時を待っているようである。



午後になると、多くの乗客を乗せた「チャーター船」や「官用船の臨時便」が着くたびに、桟橋あたりがひときわにぎやかになってきた。新盛園長の開会挨拶に続き、来賓の方々からの挨拶を受け、大島の夏祭りが始まった。

やがて瀬戸内の島陰に夕日は沈み、阿波踊りや、高松踊り、更にはよさこい踊りなど四国の盆踊りが披露され、いつしか祭りは最高調に達していた。この祭りが、いかに盛り上がっているかのバロメータのごとく、生ビールを販売する屋台の前の行列は絶えることがない。園庭に集う五百人あまりの人々の歓談する声が、島内にこだましているようである。





サクソホンの穏やかな音色が帰りの船便を待つ方々の心を包み込み、そして大島全体をも包み込む中でのフィナーレ。入園者、祭りのスタッフ並びに協力者、一旦の来島者、皆が交じり合いと共に歓談した夏祭りも、園長の閉会挨拶で、全てのプログラムが終了となった。



気が付くと、すっかり日も落ち、大島の夏祭りはクライマックスを迎える。大島栈橋で、花火師たちが半日がかりで準備をしてきた打ち上げ花火が次々と、夜空にその大輪を開いた。間近で見る花火は実に圧巻である。無数の花火が夜空に開花すると、あちらこちらで歓声が上がっていた。



来園していただいた皆様、来年の夏、また、お会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。



第86回 瀬戸内集談会 回想記

病棟・治療棟看護師長 新上 仁美



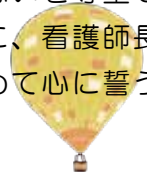
平成29年7月12日（木）に、サンポート高松で開催された瀬戸内集談会では、一般口演が24題、示説が5題で発表されました。

シンポジウムのテーマは「医療・看護・介護・福祉の現場における入所者の人権」として、事務、看護、福祉の視点から発表が行われました。邑久光明園では、看護の立場から入所者と職員、また職員間の馴れ合いを問題と捉え正しいこととそうでないことを職場で

判断する基盤として「看護者の倫理綱領」の抄読会を実施していることの紹介がありました。これを受けて、看護師・介護員の実践するケアが、入所者の思いに沿っているか検討することの重要性を再認識したので、自部署のカンファレンスに取り入れたいと考えています。また当園の発表は、ソーシャルワーカーとしての役割の中で、入所者と肉親との間という立ち位置から入所者の人権を考えた内容でした。

入所者が当園に入所した経緯は様々で、かつての国の政策としての強制隔離により、多くの入所者が故郷、家族と引き離され、あるいは絶縁を言い渡されて断絶した方もいると聞いています。講演を聞いた時、私は、私が31歳の頃の事を思い出しました。外科処置をしている時、私にその入所者は、「昔、私たちは人ではなかった。それはそれは辛かったんよ。」と明るい口調で話されました。私は深く考えもせず「解るわぁ。」と軽く同調しました。心無い言葉でした。その方は優しいけど、でもきっぱりと「何が解るか。経験したこともないのに解るわけがない。解るなんて言わんで。」と答えられました。私の絶対禁句になったことは、言うまでもありません。穴があったら逃げ込みたいほど自分を恥じた経験でした。今でも私の言動が知らず知らずの内に入所者の尊厳を傷

つけているかもしれません。入所者の人権と思いを尊重し、最善のケアを提供するために、看護師長としてもっと頑張らねばと改めて心に誓う機会となりました。



大島神社の歴史について

入所者自治会

平成 23 年(2011)の台風災害以降、立ち入り禁止になっていた大島神社を宗教地区(金光教跡地)に移転する工事が完成し、今年 10 月 16 日に鎮座祭が執り行われます。この大島神社について少しご紹介いたします。実は移転前の大島神社は再建されたものです。初代大島神社は皇紀 2600 年記念事業として昭和 15 年(1940)に建立、社殿落成は同年 6 月 17 日、御神体鎮座祭は 6 月 25 日、貞明皇后御誕生日に挙行され、10 月 26 日に大島神社第一回祭礼が執り行われました。「多年の念願であった大島神社は入所者の奉仕作業によって土工完成し、御神体は伊勢神宮と出雲大社の御分霊を合祀することになっている」と藻汐草(自治会機関誌)に記録が残っています。その初代大島神社は敗戦後の昭和 21 年(1946)、GHQ の命令により解体、石の鳥居と玉垣のみを残し、大島神社御神体は職員地区の権現神社に安置されることになりました。昭和 27 年(1952)4 月、日本は講和条約を締結し、主権が回復しました。しかし、国の施設が宗教宗派に偏してはならないという規律は続き、各宗派とは別に大島神社の再建を希望する入所者も多かったようですが、戦後しばらくは国立の療養所が神社再建に立ち上がることが許されませんでした。



昭和 40 年(1965)になり、当時の海老沼健次分館長が大島神社再建について相談をしていた神戸の安原様を通じ、神戸の米田実業(株)及び名古屋大和観光(株)の社長である米田茂様のお取り計らいで名古屋のビル上にあった建設費 100 万円以上を要したという社殿を御寄附いただくことになりました。社殿を分解して名古屋から高松までの運搬費用及び宮大工さんの工賃まですべて先方の御寄附であったようです。こうして初



代大島神社の跡地に大島神社は再建され、長い間、権現神社で御神霊を守っていただいた島民の御蔭で奇しくも初代大島神社遷座祭と同じ貞明皇后の御誕生日の 6 月 25 日に遷座祭が挙行されました。重ねて申し述べると再建大島神社の御神体は伊勢神宮の天照大神と医薬の神である出雲大社の御分霊を併せてお祭りしたものです。この度、金光教跡地に移転された大島神社の社殿は新しく造りなおしたものの、石の鳥居と玉垣、灯籠は初代大島神社からのものです。この新しい大島神社が入所者の方々の心の支えとなりますように、また祭神及び祭神を通じて拝む在天大地の大神が永久に大島の守り神でありますように祈って止みません。

研究論文『プロミン開発以前にハンセン病患者に繰り返し生じた外傷の原因と
その対処』に日本看護研究学会 学会賞を戴きました

2-2センター 看護師 近藤 松子



この度『プロミン開発以前にハンセン病患者に繰り返し生じた外傷の原因とその対処』論文が、学会賞を戴きまして心より光栄に存じます。私は、平成6年10月より大島青松園で勤務するようになり、平成15年3月に看護師免許を取得させていただきました。看護師としての仕事にやりがいを感じる中、平成23年10月より同僚の山端美香子さんと前述のテーマの看護研究に取り組みました。

研究を始めた頃は、何も分からなくて、岡山大学医学部保健学科の近藤真紀子先生のご指導のもとハンセン病の基本から勉強し直す機会となりました。質的研究であったので逐語録の振り分け、カテゴリー分け、論文作成等、何度も挫けそうになりました。その当時は大変難しかったのですが、研究に真摯に取り組むうちに、ハンセン病のこと、入所者様のこと、今の自分はハンセン病回復者に対して何が出来るのか等、少しずつではありますが考えられるようになりました。

まず「ハンセン病患者に繰り返し生じた外傷の原因とその対処」の論文作成のため、何度も近藤真紀子先生の所にお伺いしてご指導をいただきました。その研究発表は、平成25年8月23日に日本看護研究学会学術集会にて行い、また平成26年9月千葉看護学会学術集会に参加してハンセン病の啓発活動をさせていただきました。その際、皆様の質問事項も多く大変興味を持っていただきました。

その後『プロミン開発以前にハンセン病患者に繰り返し生じた外傷の原因とその対処』としてさらに一步踏み込んだ論文となり、日本看護研究学会雑誌に掲載が決定し、多くの方々に読まれハンセン病を知っていただく事ができました。その結果、平成29年8月愛知県東海市芸術劇場で開催された「日本看護研究学会 第43回学術集会」で「学会賞」という名誉ある賞を受賞することができました。

最後になりますが論文作成において、ご指導、ご協力をいただいた近藤真紀子先生はじめ、天野芳子様、石川和枝様、諸先輩には大変感謝いたしております。私がこのような喜びを得る事ができましたのは一重に皆様のおかげであります。本当にありがとうございます。今後も入所者さま第一の看護と自己研鑽に努力してまいります。



左から近藤・山端看護師、近藤真紀子先生

そうめん流しで夏を満喫

生活環境改善・生き生き支援チーム

今年の夏は、酷暑という言葉がピッタリと言うような、息を吸う空気さえ暑く感じる夏でした。昨年は、3センターが催したそうめん流しですが、今年は園全体で8月23日・24日に開催しました。

大島の竹を使い、昔大工をしていた入所者の方と生活環境改善チームのメンバーが力を合わせてそうめん流し台を作り、特大のそうめん流し台が完成しました。途中には、岡山大学医学部保健学科看護学専攻の学生ボランティアの方も参加し、入所者さん、職員と共に作成しました。



暑い中の竹取り、そうめん流し台作りは、暑さとの戦いでしたが、入所者さんが笑顔で喜び姿を思い浮かべながらの作業だったと思います。

生活環境改善チームが創意工夫を凝らした、そうめん流し台が完成し、「すごいのができたね～」とビックリされた入所者さんもおられました。藁箆を屋根につかったテントを作業の方が作ってくださり、ボランティアの方ともみじの葉や笹で飾り付け、風鈴も下げて会場づくりもできました。そうめんも栄養係の方に、準備していただきました。

入所者さん、医師、看護課職員、学生ボランティアの方、香川大学医学部の整形外科実習の医学生など多数の方が参加されました。生き生き支援チームのメンバーや職員は、「今、流れてます。頑張ってそうめん取ってください。」と声を掛け合いながら、入所者さんにそうめんを掬ってもらっていました。入所者さんも「おいしい。いつもよりたくさん食べれたわ～」と笑顔で話されていました。また、終了した時には「楽しかった。楽しかった。」と大変喜ばれていました。学生ボランティア・医学生の方もそうめん流しを初めて体験したという方も多く、そうめんを食べる度に大島青松園を思い出してもらえるのではないかと思います。



新採用者紹介 (平成 29 年 9 月 1 日付採用)



福祉室：医療社会事業専門員
岡村翠（おかむらみどり）
9 月 1 日付で採用されました、岡村翠です。よろしく
お願いいたします。



2-2 センター：看護師
上村理砂（かみむら りさ）
ハンセン病回復者の方に、
ケアパートナーとしてより良
い看護ができるよう努力して
行きたいと思えます。よろしく
お願いいたします。



3 センター：看護師
柁山友吾（ますやまゆうご）
9 月から働くことになり
ました柁山です。大島の方々に
信頼していただけるよう
に頑張ります。よろしくお願
いします。

大島青松園来園方法

見学をご希望される方は、下記へご連絡、又はホームページをご覧ください。
連絡先：国立療養所大島青松園福祉室 電話（087）871-3231（内線 6464）
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/osima



大島青松園への来園には、
官用船が利用できます。

船舶運航時刻

	大島港発	高松港着		高松港発	大島港着
1 便	8:40	9:00	1 便	9:10	9:30
2 便	10:30	10:50	2 便	11:15	11:35
3 便	13:25	13:45	3 便	14:00	14:20
4 便	15:00	15:20	4 便	15:30	15:50
5 便	16:30	16:50	5 便	17:00	17:20

— 編集後記 —

大島青松園の今年の夏は、大きなイベントである夏祭り、そうめん流しもあり職員にとっては準備に忙しい時期でした。「あついわ～」と笑顔で言いながら準備をする姿、段々日焼けしてしまうのも大島の夏ならではの季節の催しは、懐かしさや新たな思い出となり、入所者の方だけでなく、職員もこころを豊かにしてくれると感じています。

【発行元】国立療養所大島青松園 住所：〒761-0198 高松市庵治町 6034-1 ☎（087）871-3131

【発行責任者】岡野美子（園長） 【企画・編集】広報委員会